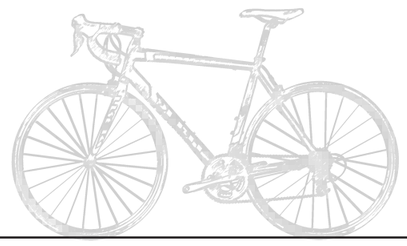


車輪がつくる風景

島根県益田市蟠竜湖公園のリノベーション

Background

戦後、高度経済成長を果たした我が国であるが
近年急激な人口減少と高齢化が社会問題となっている
特に地方小都市は深刻である
一方でこうした地方小都市には豊かな自然や伝統、歴史が残っており
今日、地域資源を活かしたオルタナティブツーリズムを取り入れた観光まちづくりが注目されている

About Masuda & NPO

対象とする地方小都市は島根県益田市
人口約 49,000 人、人口の 30%が、山間地域では 40%以上が高齢者であり少子高齢化問題を抱える典型的な地方小都市である。

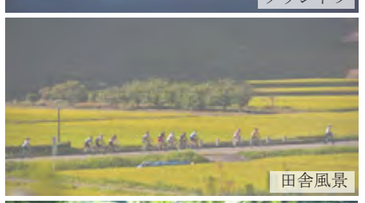
深刻な問題を抱える一方、益田市には豊かな自然と文化、歴史、特産品などがあるが、注目されることはなく、これといった観光資源にはならない。

しかし、現地にてヒアリング調査を行ったところ
NPO 法人“益田市・町おこしの会”が自転車によるまちおこしプロジェクトを積極的に行っていることが分かった。

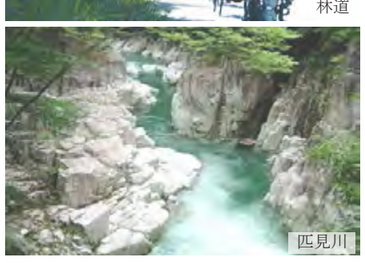
益田市・町おこしの会では年に一度、サイクルウィークというイベントを実地し、最終日には全国から 200 名に及ぶサイクリストが集まり、益田市内を走り抜ける。

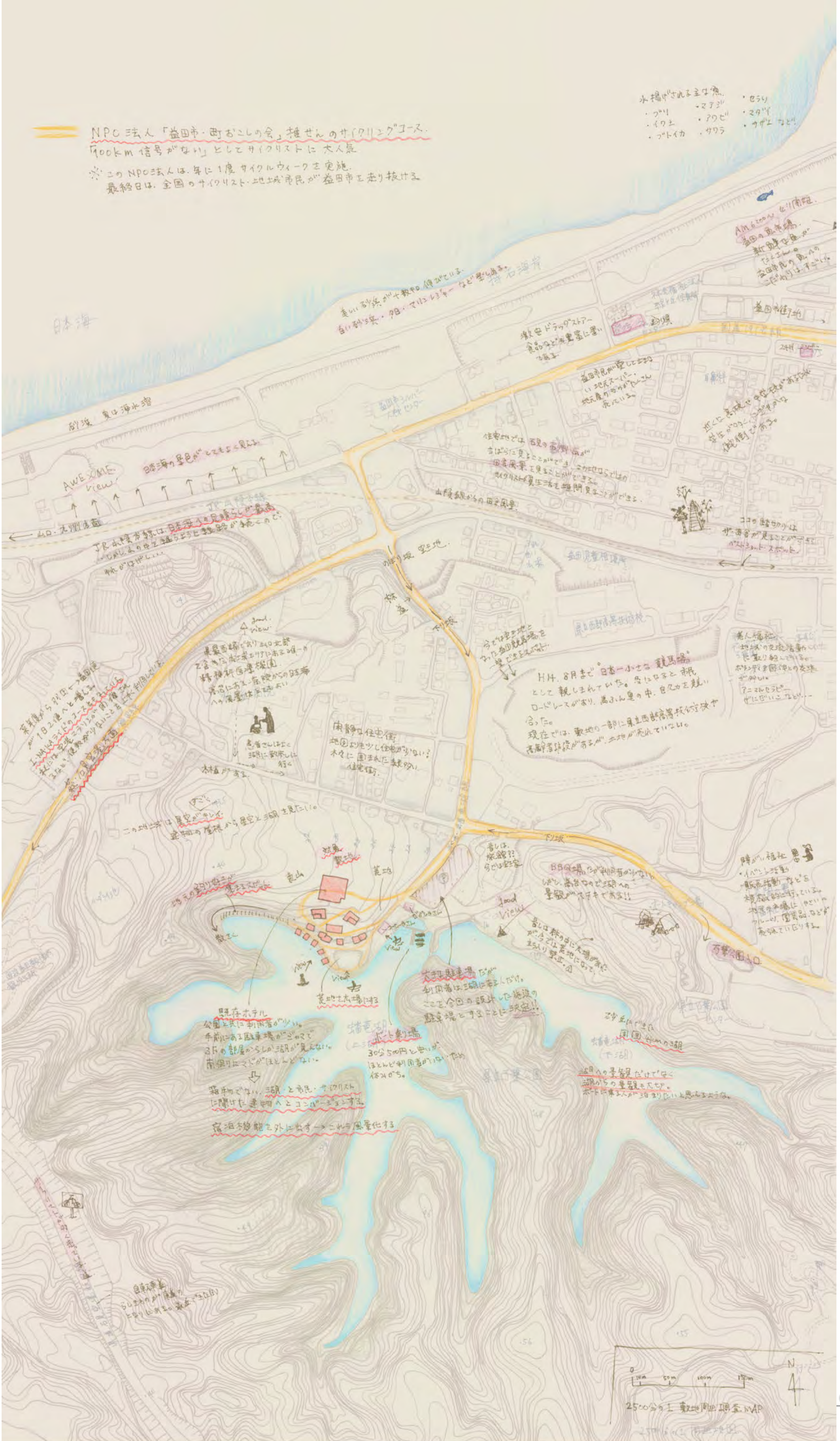
日本海

グラントワ


田舎風景

林道


匹見川


NPO法人「益田市・町おこしの会」推せんのサイクリングコース。
「100km 信号がない」としてサイクリストに大人気
※このNPO法人は、年に1度サイクルウィークを実施。
最終日は、全国のサイクリスト・地域市民が益田市を走り抜ける
水揚げされる主な魚。
・ブリ
・イワシ
・ブトイカ
・マアジ
・アワビ
・サワラ
・セラリ
・マダイ
・サザエ などが
日本海
美しい砂浜が十数キロ伸びている。
白い砂浜・夕日・マリンレジャーなど楽しめる。
特石海岸
数店ドラッグストア
食品などを重宝に置いている。
益田市民が愛してやまない地元スーパー。
地元産のおかずがたくさん売っている。
住宅地では、石見の古民家が
ちらほらと見ることができ、この地ならではの
田舎風景を見ることができる。
サイクリストが異生活を堪能することができる。
山陰線からの田舎風景
AWESOME view
日本海の景色がとてもよく見える。
JR山陰本線は、日本海人の見晴らしが最高
JR益田駅
山口・九州方面
ココの坂からは
ザ・海岸が見ることができる
ベストショット・スポット
かぼり坂 空地
林道
下り坂
県立西部高等技術校
Good view
果樹園がありキロ北部
を含めた地域エリアにある唯一の
精神科医療機関。
高台にあって、海からの日本海
への眺望は素晴らしい
患者さんは
毎日に散歩しに
行く
木材置が多い。
静かな住宅街
地区よりも少し住宅が少ない?
木々に囲まれた緑多い
住宅街。
今では空き地と
なった益田競馬場を
一望できるバルコニー
H14.8月まで日本一小さな競馬場
として親しまれていた。冬になると雪
ロードレースがあり、高ふん量の中、自分を競い
合った。
現在では、敷地の一部に県立西部高等技術校や
高齢者施設があるが、土地が余れている。
障がい者福祉
地域の交流活動に
取り組んでいる。
ボランティア・多目的との交流
が多い。
アニマルセラピー
ぜひにだいこなど…
この地区は星空がキレイ
建物の屋根から星空と湖を見たい。
下り坂
昔は、
旅館??
今では空き
BBQ場
しかし、高台なので湖への
景観がステキである!!
Good View
昔は森の中に大場があった
が、今では老地になって
立入り禁止。
障がい者福祉
・イベント活動
販売活動 などを
積極的に行っている。
敷地の内容は、ゆたいか
ウルーム、雑貨品、などが
売られている。
芝生公園入口
荒地
敷地
荒山
地元の釣り好きが
集まるスポット
散策
荒地を広場にする
View
宿泊施設
大きな駐車場だが
利用者は湖にもまんだけ。
ここを今回の設計した施設の
駐車場とすることに決定!!
ボート乗り場
30分500円と安いが
ほとんど利用者がいないため
休みがち。
砂丘にできた
周囲4kmの湖
湖への景観だけでなく
湖からの景観も大切。
ボートに乗る人が泊まりたいと思えるような。
宿泊施設を外に出す → これから風景化する
自転車道
うしきたのが自転車の
とおりに沿う。敷地にもはい
0 10m 50m 100m 150m
N
2500分の1 敷地周辺調査MAP

敷地周辺調査マップ

蟠竜湖の畔　敷地配置図

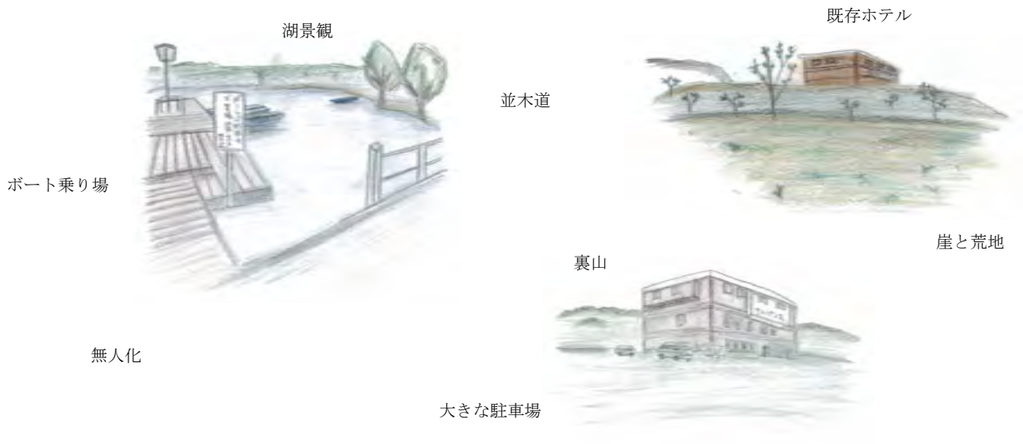
Concept

「地方小都市におけるサイクリストの拠点計画」

深刻な人口減少という問題を抱えながらも“自転車”という地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいる島根県益田市
ここに全国300万人のサイクリストが注目し自転車に集中できる空間を提案する

Site

敷地は益田市が推薦するサイクリングコース上にある蟠竜湖の畔
美しい湖景観を主体としたレジャーの場として、散策コースやボート乗り場、釣堀などがあり、地域の人々に親しまれていたが、近年利用者が激減し廃れたものとなっている
今となっては大きなホテルと駐車場、フェンスのない崖や荒地だけが残されている



Idea

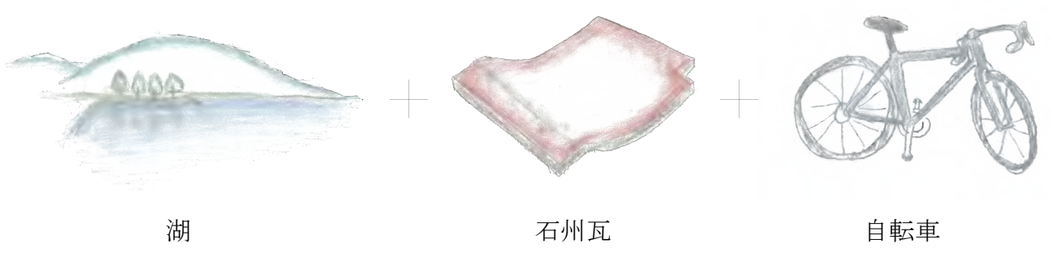
「島根県益田市蟠竜湖公園のリノベーション」

箱型の閉鎖的なホテル
荒地や崖、大きな駐車場
サイクリストの合宿スペース

→

・既存ホテルのコンバージョン
・土地を整えランドスケープの調整を行う
・各宿泊棟のデザイン

湖＋石州瓦＋自転車導線、そこを走る車輪（サイクリスト）がこの地に独特な風景を作り出す



Land scape

配置した建物と自転車導線に地形を合わせオープンスペースや林道でその間を繋ぎ、建物と広場のディテール
敷地全体でランドスケープデザインを考える

（1）現状
荒地、大きな箱型のホテル、駐車場、崖、並木道がある

（2）復元
削られたち地を元に戻しなだらかな斜面を復元する

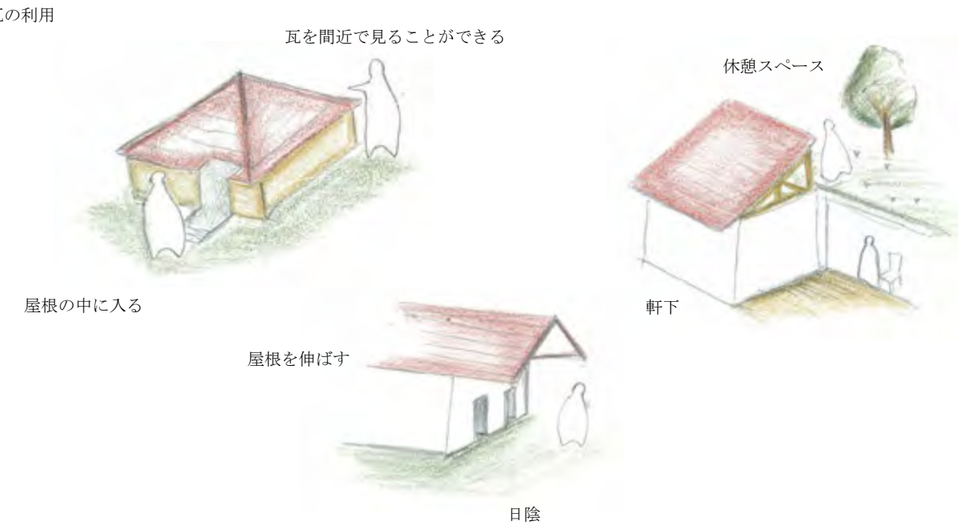
（3）配置
既存ホテルの宿泊機能を外に出し斜面に沿って配置する

（4）導線
敷地全体で緩やかに、シークエンス景観を楽しめる自転車導線を考える

石州瓦

それぞれの建物の屋根には石見地方の地場産業である石州瓦を使用する
石州瓦は光の当たり方により様々な表情を見せるため、南向きの斜面に配置し、かつ水の反射を受けるこの敷地で、独自の風景を作り出すと考える

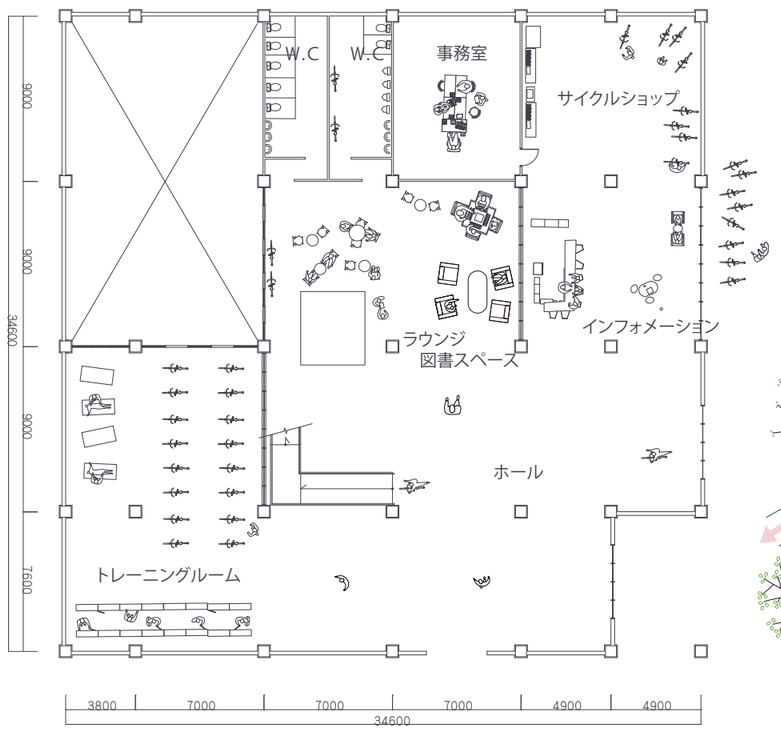
石州瓦の利用



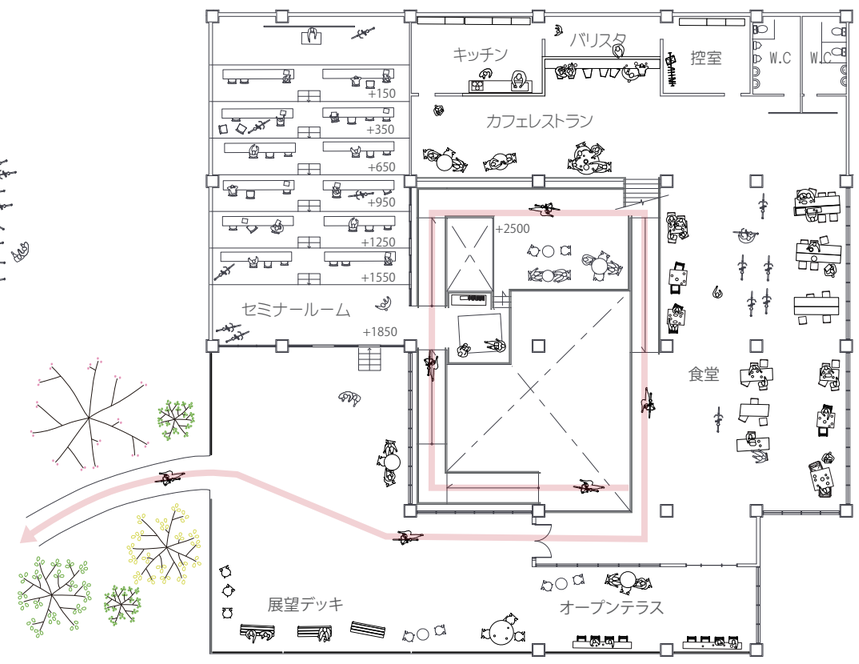
車輪の家

敷地にやってきたサイクリストがまず訪れる車輪の家
ボリュームを隠し、もともとの大きさを利用し、中心に大きな吹き抜け空間を設け
スロープによる自転車導線を取り入れた
２Ｆのオープンテラスから下るスロープは、14 の宿泊棟と広場へと続いている

1F: インフォメーション・サイクルショップ・トレーニングジム
1.5F: セミナールーム・レストスペース
2F: レストラン・食堂・オープンテラス・展望デッキ
3F: 温泉・洗濯受付・リラックスルーム



1 F平面図



1.5F　2 F平面図

自転車導線　0m　5m

宿泊棟

それぞれの宿泊棟では、サイクリストが自分の自転車を駐輪所や玄関に放置せず部屋まで持ち運ぶことができる部屋プランを考えた

湖と車輪

湖景観を眺めながら、安らぎや静けさを求めるサイクリストへの提案
南に面して大きな窓があり、窓の区切り方によって部屋の形が変わる

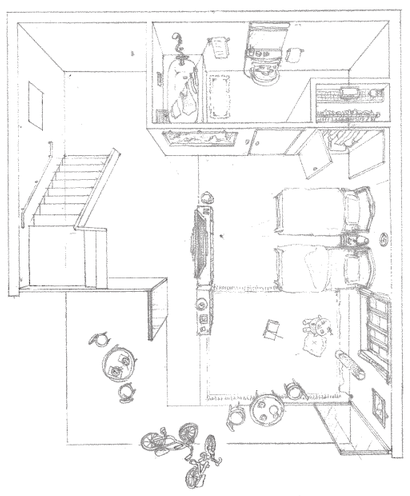
通りと車輪

湖の水面より 3m 高い位置にある
通りに面し大きなテラスがあり自慢の自転車をディスプレイしたり、整備したり、各々の自転車を持ち寄っておしゃべりしたりすることで自転車コミュニティができる出会いの場

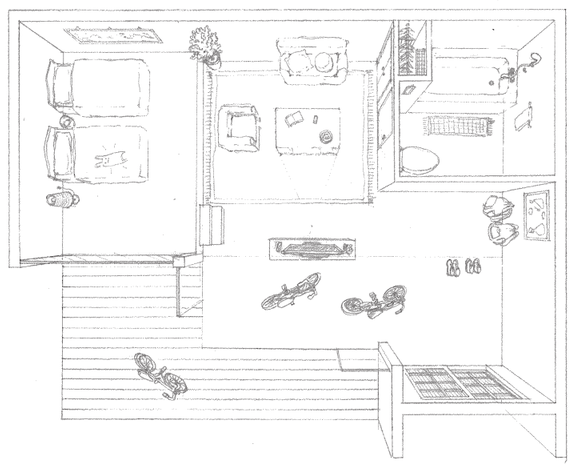
広場と車輪

広場に面している団体向け宿泊棟
建物内には各々の自転車を持ち寄りミーティングや整備ができるラウンジがあり、屋根上では、昼は湖を一望できる、夜は星空を眺めることができるテラスがある

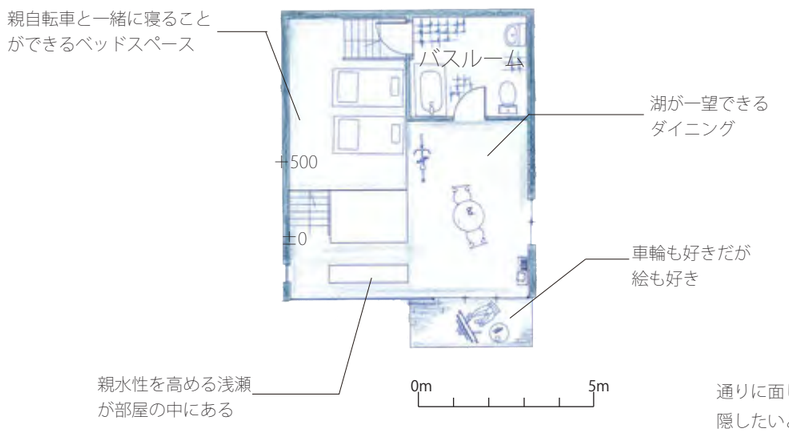
湖と車輪 - 解放タイプ -



通りと車輪 - ディスプレイタイプ -

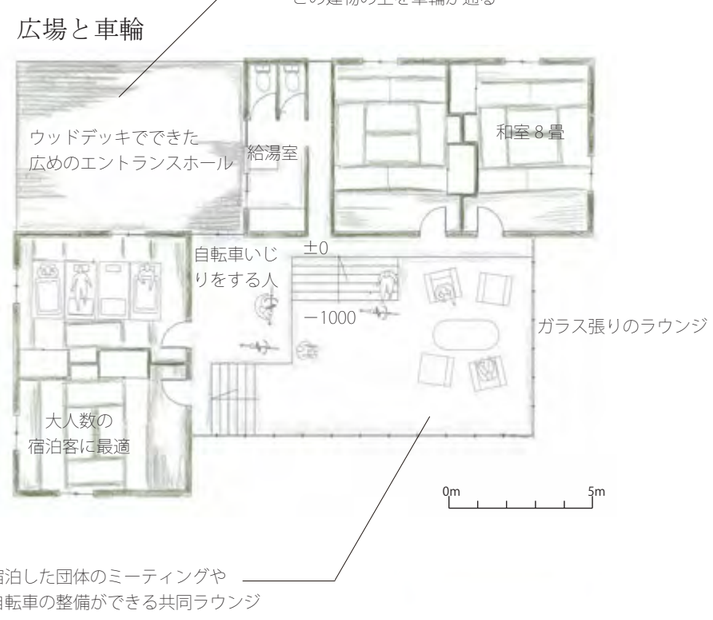


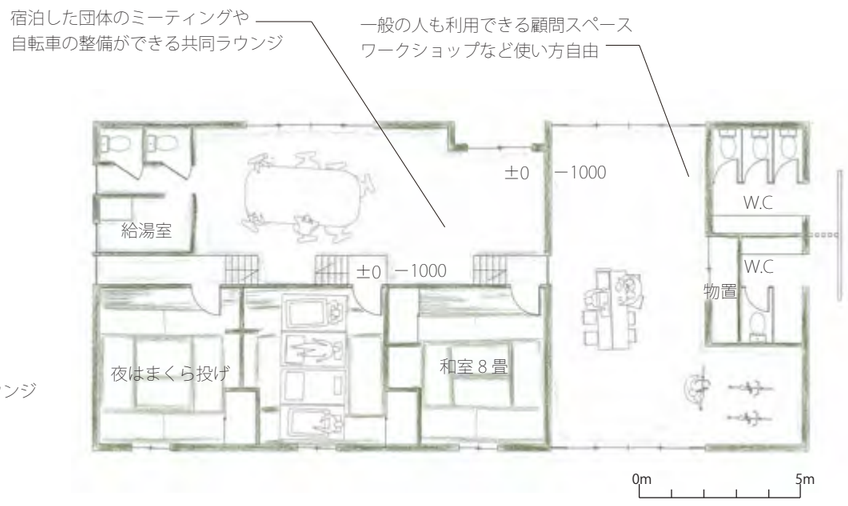
湖と車輪 - 親水タイプ -



通りと車輪 - 共有タイプ -

広場と車輪



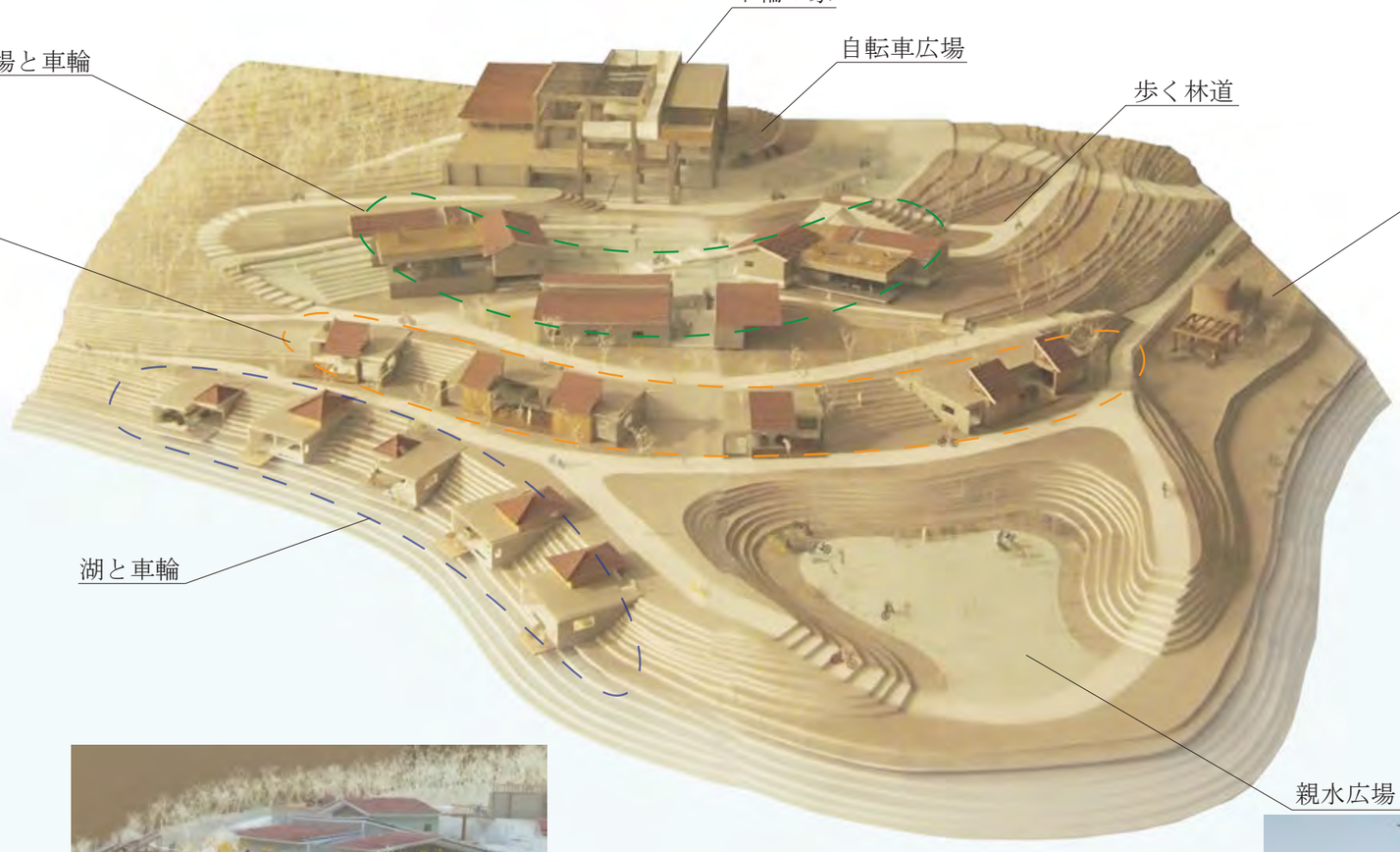


敷地断面図 A-A’

Model

林道スロープ

車輪の家



蟠竜湖

瓦通り